

日本赤十字社では、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、全国で各種講習会を実施しています。



基礎講習では、成人の訓練用人形を用いた心肺蘇生法、A E Dの使用方法を、救急員養成講習では講義や実技を通して、傷や骨折の手当、搬送などについて学びました。
6月、9月に開催し、のべ47名の方が受講されました。

救急法基礎・救急員養成講習 6月、9月@奈良県支部



子どもの尊い生命を守るために、子どもに起こりやすい事故に対する事故防止と手当の方法、家庭内での看病の方法や災害時の乳幼児支援などについての知識や技術を学びます。
8名の方が受講されました。

幼児安全法支援員養成講習 5月@奈良県支部



赤十字健康生活支援講習は、誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な、健康増進の知識や高齢者の支援・自立に向けた生活の仕方や工夫を学ぶ講習で、8名の方が受講されました。

健康生活支援講習支援員養成講習 7月@奈良県支部



延べ6日間にわたる赤十字幼児安全法指導員養成講習会を受講し、合格された3名が新たに指導員として仲間入りしました。指導員に認定されるには、乳幼児の事故防止や応急手当に関する高いレベルの知識と技術の習得だけでなく、実際の講習会で分かりやすく丁寧に指導できる能力が求められます。指導員養成講習会では、赤十字やボランティアについて学ぶとともに、受講生に分かりやすく学科や一次救命処置の手順などを伝えられるよう実習も行いました。

幼児安全法新任指導員研修会 8月16日（土）～20日（水）@奈良県支部



災害時に救護班が連携の取れた医療救護活動を円滑に行うために、必要な知識・技術を習得することを目的に実施しました。救護班は、医師、看護師、主事（事務職員）、薬剤師などで編成され、覚書を締結している医療機関などから、34名が参加されました。日本赤十字社の災害救護の体系や法的根拠、無線機の取扱い方、災害時の活動における基本的な考え方となるC S C A T T、資材やマンパワーが限られている災害現場において可能な限り多くの命を救うために治療の優先順位をつけるトリアージ、災害診療記録の書き方、避難所の状況やニーズを把握し必要な支援を考える避難所アセスメントなどを学びました。本研修は、日赤災害医療コーディネーターとコーディネートスタッフの協力を得て、毎年実施しています。

日本赤十字社奈良県支部救護班基礎研修会 5月 10日（土）@奈良県支部



この訓練は、毎年近畿の支部の持回りで開催され、今年は大阪府支部主催で、高槻赤十字病院等を会場に実施されました。近畿にある赤十字病院から救護班14班が参加。奈良県支部からは、覚書を締結している南和広域医療企業団から参加いただきました。今回は、有馬-高槻断層を震源とする直下型地震と、その余震でトンネル崩落事故が発生したとの訓練想定で、現場救護所訓練や避難所（避難所アセスメント、巡回診療）訓練、支部災害対策本部訓練、アマチュア無線を用いた通信訓練や救援物資の搬送などを行いました。また訓練の運営スタッフとして、奈良県支部の日赤災害医療コーディネーター及びスタッフにも協力いただきました。

第4ブロック（近畿）合同災害救護訓練 6月 7日（土）@大阪府（高槻赤十字病院）



防災フェス 2025～新緑の候～「防災道の駅」で楽しく防災を学ぼう！」に参加しました。この道の駅は、大規模災害発生時に警察・消防・自衛隊等の部隊が集結し、広域的な救助活動を行う拠点となっており、今回のイベントにも、災害時に活動する団体が多く参加されました。災害救援車や備蓄している救援物資、防災教育のための教材などを展示しました。

防災フェスタ 6月 1日（日）@道の駅クロスウェイなかまち



評議員 22名のご出席と、22名の委任状の計44名（定数45名）の方に、支部役員の改選、令和6年度支部事業報告及び一般会計決算報告及び血液センター事業報告について、ご審議いただき、原案のとおり了承されました。

支部評議員会 6月 9日（月）@奈良県支部



令和7年度赤十字奉仕団支部委員会を開催しました。支部委員会では、県内の各地区委員会委員長及び支部指導講師が参加し、協議事項について、出席者同士で活発な意見交換が行われました。

赤十字奉仕団支部委員会 6月30日（月）@奈良県支部



親子で災害や防災についての理解を深めることを目的に「親子で学ぶぼうさい教室 2025」を開催しました。赤十字や防災についてクイズ形式で学ぶ「防災クイズ」、地震に備えて、家の危険な場所を知り、いのちを守るための家具の安全対策を学ぶ「おうちのきけん」をしました。また、災害時に活躍する無線通信や非常食の体験、疑似体験装具を着用して高齢者の気持ちを考える「高齢者疑似体験」、食品ラップやビニール袋などの身近なものをを使った応急手当の方法についても学びました。

親子防災教室 7月27日（日）@橿原市



有功会総会 7月11日（金）@奈良ホテル

有功会総会が開催され、54名の有功会員の方々が出席されました。事業報告、収支決算報告等の審議・承認の後、奈良警察署 生活安全課 警部補 武田全広様をお招きして、「犯罪被害にあわないために」と題した講演を熱心に拝聴されました。また、懇親会では、有功会顧問である福谷副支部長も参加して、会員相互の交流を深めました。



高校生対象救急法講習会「救急法を知ろう」 7月29日（火）@奈良県赤十字血液センター

奈良県支部創立 130 周年記念事業の一つとして、開催しました。いざという時に迅速かつ適切に手当を行い、一人でも多くの命が救われることを目的として実施しました。当日は、県内から 18 名の生徒が参加し、胸骨圧迫や人工呼吸などの一次救命処置を学びました。また、会場となった血液センターの見学や血液センター所長による献血セミナーもおこないました。



1泊2日の集団生活を通して、自ら「気づき、考え、実行する」力を育み、学校や地域社会で活躍する児童・生徒の養成を目的とし、今年度は27校48名のメンバーが参加しました。1日目は、赤十字のことを学び、身近なものを使った応急手当やコミュニケーションの大切さを学ぶ新聞タワー（新聞紙とテープのみでタワーを作り、その高さを競うワーク）をしました。夕食後は、キャンドルサービスを実施し、レクリエーションを通して交流をより深めました。2日目は、学習した内容を生かしたフィールドワークを実施しました。5つのチェックポイントでは、意見を出しながら協力して回りました。

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 8月7日（木）～8日（金）@奈良市青少年野外活動センター



近畿圏内の支部・赤十字病院などから、参加者・スタッフ合わせて100名以上が集結しました。奈良県支部からは覚書を締結している奈良県西和医療センターから参加いただきました。活動するうえで必要な救護員としての心構えや安全管理の重要性、記録の取り方、新しくなったEMISの入力方法など、話を聞くだけの研修ではなく、グループワークや実習を取り入れた内容で進められました。2日目には病院支援と避難所支援を想定した総合演習も行われました。

第4ブロック（近畿2府4県）赤十字救護班研修会 8月23日（土）～24日（日）@京都府（京都第一赤十字病院）



コロナ禍もあり、7年ぶりの開催となりました。35名の方が参加しました。1日目は、ボランティアサービスについて学び、その後各自が興味のある分野に分かれ、それぞれのブースでグループワークを行いました。2日目は、午前中に赤十字基本原則やジュネーブ条約について学んだあと、1日目にグループワークで行った内容を参加者に共有しました。午後からは、救急法の実技講習を行いました。研修会終了後参加者からは、「今回の研修で、良いと思ったら声に出してすぐ行動するリーダーシップの大切さを学んだ」「今まで指示されたことを行動しているばかりだったので、気付いた事を形にしていく、協力者を得て実行していく難しさを感じた」等の感想が寄せられました。

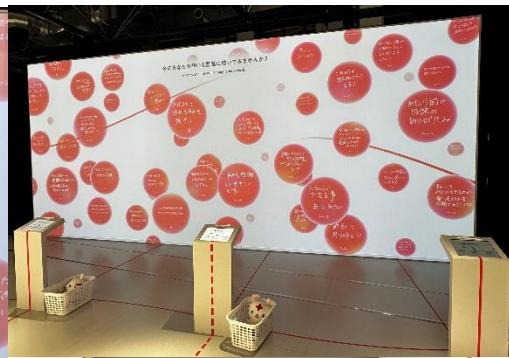
地域赤十字奉仕団リーダーシップ研修会 9月8日（月）～9日（火）@大和高原ボスコヴィラ



職員を対象のワークショップを開催しました。プロジェクトのキャッチコピーは「一緒に創ろう 日赤の未来」です。奈良県支部と血液センター合同にて開催したこと、職種、部署、経験年数などの垣根を超えて、それぞれの立場から「赤十字とは何か」「るべき姿・果たすべき役割」などについて語り合い、新たな発見・学びを得る機会となりました。また、アイスブレイクでは「コンビニの会社といえば」「日本の有名アーティストといえば」などグループ内で一致させるため、盛り上がりを見せました。

日本赤十字社創立150周年プロジェクトのワークショップ 9月9日（火）、16日（火）@奈良県赤十字血液センター

◆大阪・関西万博運営スタッフとしていってきました◆



奈良県支部からは 44 名のボランティアや職員がスタッフとして派遣され、184 日間におよぶパビリオン出展が無事終了しました。パビリオンにご来場いただいた多くの方に、赤十字運動への理解と共感、パビリオンコンセプトの「私の“できる”は、誰かのためになる」の一歩を踏み出すきっかけをお届けすることができました。

大阪・関西万博運営スタッフ (EXPO2025)

4月 13 日 (日) ~10 月 13 日 (月・祝) @ 大阪府 (夢洲)